

平成27年度 「中学生チャレンジテスト」における 大淀中学校の結果の分析について

大阪府による「中学生チャレンジテスト」について、平成28年1月13日（水）に、第1学年と第2学年を対象として、教科に関する調査と生徒アンケートを実施しました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様に説明責任を果たすことが重要であると考え、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に生徒の学力向上をめざしています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- ① 大阪府教育委員会が、府内における生徒の学力を把握・分析することにより、大阪の生徒の課題の改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ② 市町村教育委員会や学校が、府内全体の状況との関係において、生徒の課題改善に向けた教育施策及び教育の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、学力向上のためのPDCAサイクルを確立する。学校が、生徒の学力を把握し、生徒への教育指導の改善を図る。
- ③ 生徒一人ひとりが、自らの学習到達度を正しく理解することにより、自らの学力に目標を持ち、また、その向上への意欲を高める。
- ④ 大阪府教育委員会は、調査結果を活用し、大阪府公立高等学校入学者選抜における評定の公平性の担保に資する資料を作成し、市町村教育委員会及び学校に提供する。

2 調査の対象

- ・ 大阪府内の市町村立中学校、特別支援学校及び府立支援学校中等部の第1学年、第2学年
- ・ 大淀中学校では、第1学年99名、第2学年92名

3 調査内容

- ① 第1学年で、国語、数学及び英語
第2学年で、国語、社会、数学、理科及び英語
- ② 生徒アンケート

平成27年度「チャレンジテスト」検証シート

学校名 **大淀中学校**

【 第 1 学 年 】

生徒数(人) **99**

平均点 (点)

	国語	数学	英語
学校	64.1	58.4	68.1
大阪市	60.4	49.7	62.2
大阪府	61.0	51.0	63.5

平均無解答率 (%)

	国語	数学	英語
学校	5.1	2.9	1.6
大阪市	6.7	4.9	3.4
大阪府	6.3	5.0	3.5

結果の概要

実施した3教科すべてにおいて大阪府の平均を上回った。
 (国語: +4.1p 数学: +7.4p 英語: +4.6p)
 また、平均無回答率を見ても、最後まで問題を解く努力が伺える。とりわけ数学については、問題に対して解決の意識が高く、それが平均点にも表れている。

成果と今後取り組むべき課題

平成27年度は、**学びの指導・自学自習の常習化・授業改善**をめざし取り組みを進めてきた。その結果、すべての教科で大阪府の平均点を上回ることができた。
 ただ、3教科の得点分布をみると、二極化が見られることから、基礎的な学力の向上を目指すために、「わからない」「わかりにくい」ことに応える指導方法の工夫に取り組んでいく必要がある。

【 第 2 学 年 】

生徒数(人) **92**

平均点 (点)

	国語	社会A	数学	理科A	英語
学校	50.4	55.2	63.3	46.3	59.2
大阪市	47.8	56.4	53.7	45.4	52.9
大阪府	49.2	56.5	54.7	46.5	54.8

平均無解答率 (%)

	国語	社会A	数学	理科A	英語
学校	14.7	8.0	5.8	6.1	3.6
大阪市	13.3	6.4	8.2	7.0	4.2
大阪府	12.4	6.5	8.0	6.9	4.1

結果の概要

平均得点を比較すると、大阪府平均に比べ、国語・数学・英語は平均点を上回っているが、社会Aについては下回っている。また、理科Aについては、大阪市平均を上回っているが、大阪府平均と比べると若干下回っている。
 (国語: +1.2p 社会A: -1.3p 数学: +8.6p 理科A: -0.2p 英語: +4.4p)
 国語、社会Aの無回答率は、大阪府・大阪市平均に比べて悪い(無回答率が多い)結果となった。

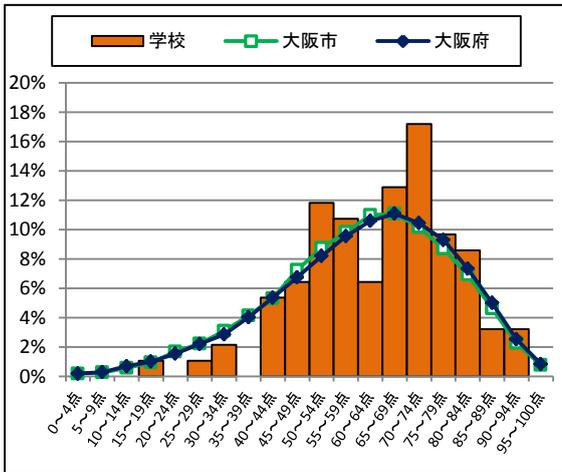
成果と今後取り組むべき課題

社会Aにおいては、昨年度と同様、歴史的分野に課題があるため、アクティブ・ラーニングを取り入れた指導方法の工夫、指導内容の改善に取り組んでいかなければならない。
 理科Aにおいては、平均点は大阪府よりも下回っているものの、観点別の正答率で見ると、「観察・実験の技能」は大阪府平均を上回っている。これは、実験・観察を重視した指導による成果と考えられる。

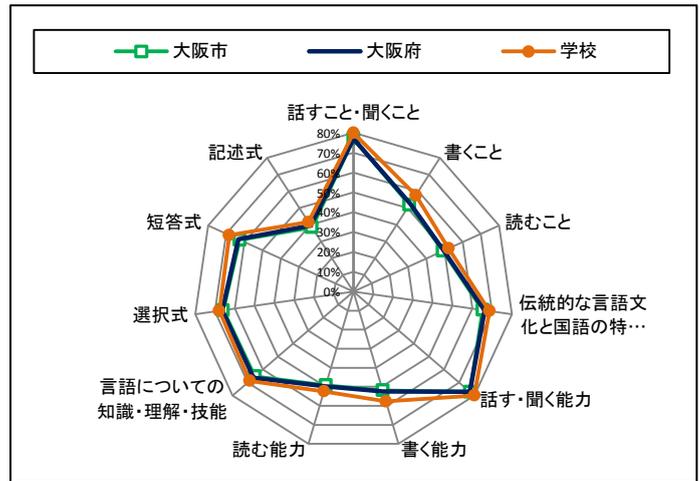
【第1学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

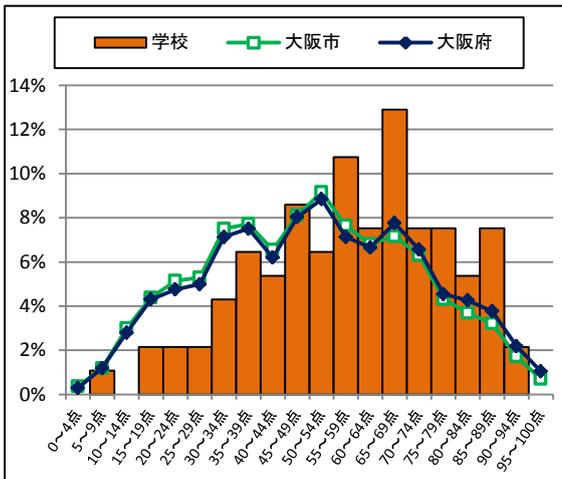


【領域・観点・問題別の分布】

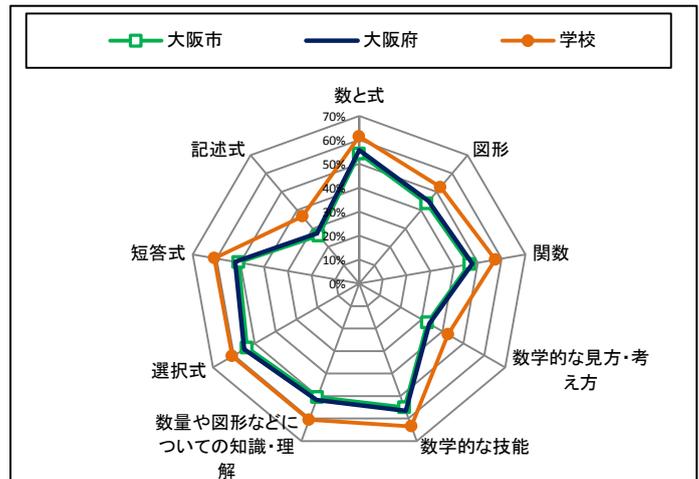


【数学】

【得点分布】

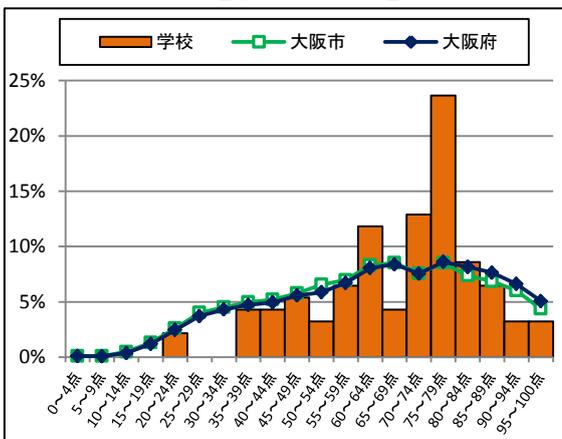


【領域・観点・問題別の分布】

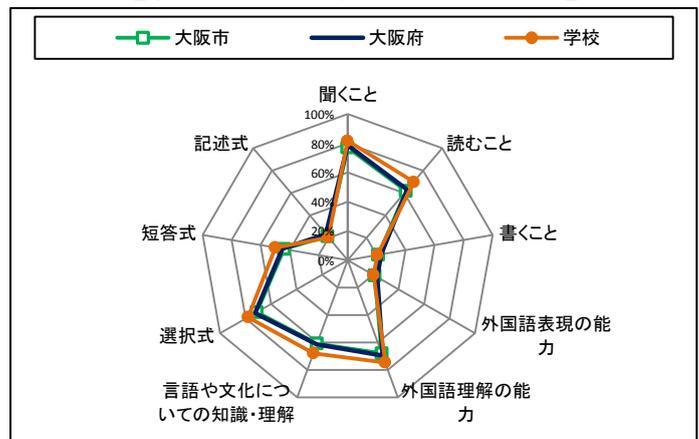


【英語】

【得点分布】



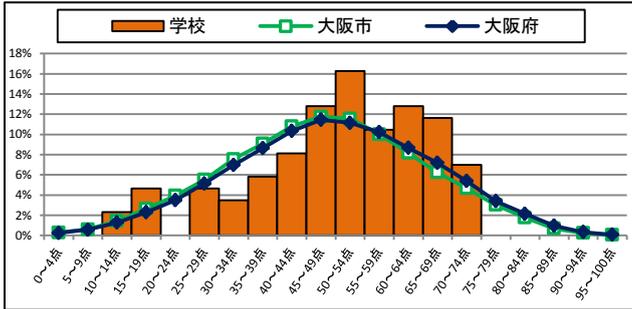
【領域・観点・問題別の分布】



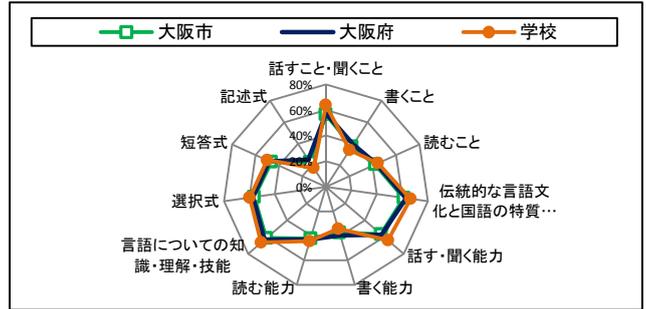
【第2学年 各教科の得点分布と領域・観点・問題形式別平均得点の分布】

【国語】

【得点分布】

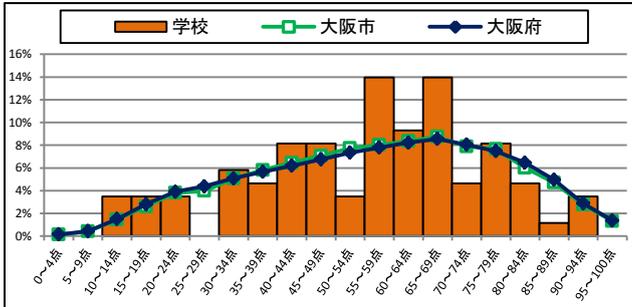


【領域・観点・問題別の分布】

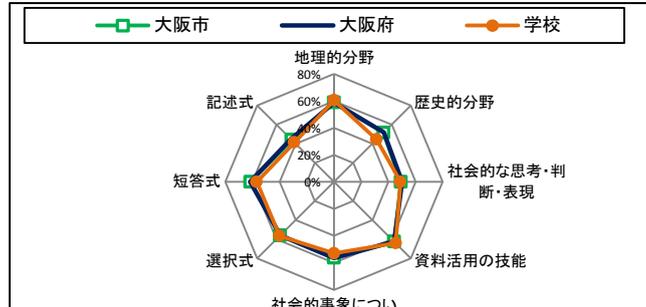


【社会 A】

【得点分布】

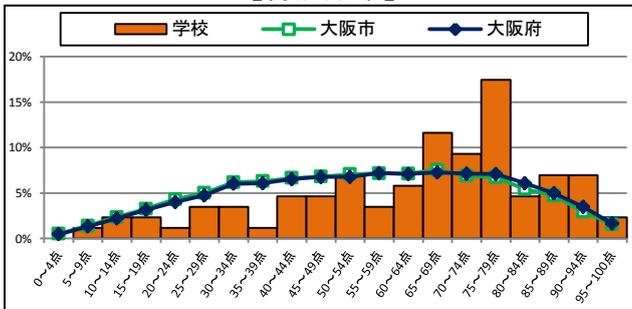


【領域・観点・問題別の分布】

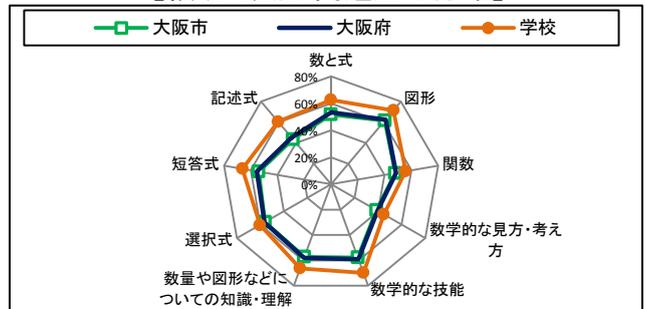


【数学】

【得点分布】

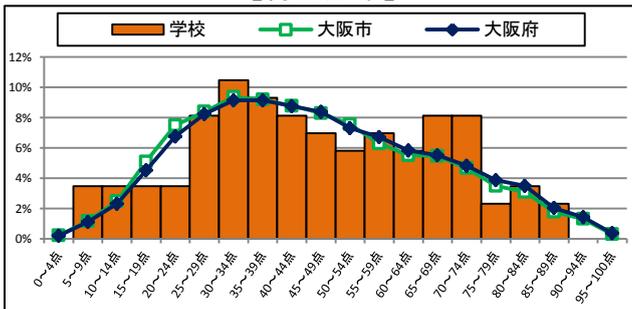


【領域・観点・問題別の分布】

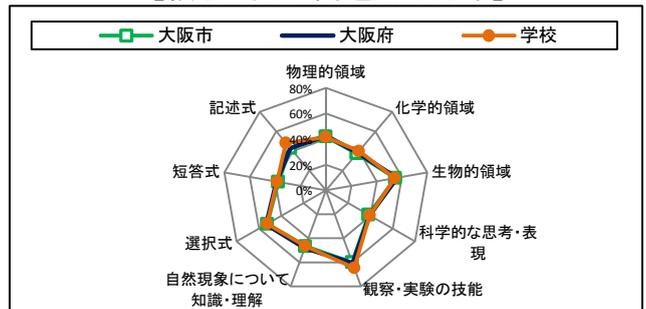


【理科 A】

【得点分布】

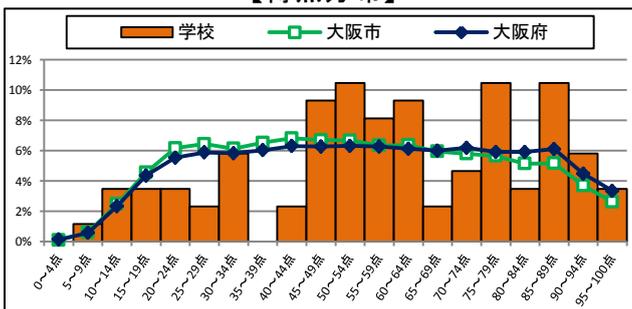


【領域・観点・問題別の分布】



【英語】

【得点分布】



【領域・観点・問題別の分布】

